



佐渡鉱山のシンボル、道遊の割戸＝佐渡市

世界遺産国内候補今夏選定

佐渡鉱山最大の好機

世界文化遺産登録を目指しながら、2015〜18年度に4年連続で国内推薦を逃してきた「金を中心とする佐渡鉱山の遺産群」(佐渡市)が、いよいよ今年夏、過去最大のチャンスを迎える。候補になり得る5候補地のうち、最も推薦書の準備が進んでおり、文化庁も「事実上、佐渡が最有力」とみている。登録推進に取り組み県と佐渡市は3月末、文化庁へ推薦書原案を提出する予定だ。

推薦書熟度高く 文化庁「最有力」

現在、佐渡以外の国内候補地は、「彦根城」(滋賀)、「鎌倉」(神奈川県)、「飛鳥・藤原」(奈良)のほか、世界遺産に登録済みの「平泉」(岩手)が登録地の拡張を目指している。国内文化審議会は年に1件、国内推薦候補を選定している。佐渡鉱山は、機械化される前の江戸時代から、質の極めて高い金銀を世界有数の規模で生産した歴史があり、国際的にみても珍しいとされている。国内推薦を

佐渡鉱山が推薦された場合のスケジュール

2020年3月	文化庁に推薦書原案を提出
7月	文化審議会が推薦候補を選定
21年2月1日まで	ユネスコに推薦書提出
夏～秋	ユネスコ諮問機関が現地調査
22年5月ごろ	諮問機関が評価結果をユネスコに報告
6、7月ごろ	ユネスコが登録可否決定



世界文化遺産国内推薦の候補地

目指す県と佐渡市は、度重なる「落選」を糧に、推薦書の内容をより分かりやすくし、史跡の保存管理計画も整え、熟度を高めてきた。他の候補地の一つ、彦根城も推薦準備を進めており、3月末に推薦書原案を文化庁に提出する予定だ。しかし、遺跡の保存管理計画など一部内容は現在策定

決定を目標としている。平泉の推薦書原案は提出時期がまだ決まっておらず、鎌倉は推薦書原案の作成を休止している。文化審議会は、19年度の国内推薦に選定した「北海道・北東北の縄文遺跡群」(北海道、青森、岩手、秋田)に次いで、佐渡が有力な推薦候補になり得るとの認識を示している。文化庁担当者も「最も準備ができているのは佐渡」とみ

る。県世界遺産登録推進室の北村亮室長は審議会に「有力」と初めて評価されたので、期待している。現在、推薦書原案の作成に大きな課題はない。推薦を得られよう努める」としている。しかし、佐渡は4年連続で推薦を逃した。「佐渡の人々は諦めず、活動を年々盛り上げてきた。佐渡市の市民団体「佐渡を世界遺産にする会」の中野洗会長(78)は力を込める。同会は、登録実現への署名運動や、史跡の草刈りなど支援活動に取り組んでいる。

「世界遺産になれば交流人口が増え、消費が活発になり、全ての産業にプラスになる」と中野会長。「みんな「今度こそ」と思っている。地元の高い思いをアピールする活動」を展開していく」と意気込む。かつて鉱山町として栄えた相川地区では、金銀山への思いがひととき強い。地元商店主らでつくる「佐渡国相川あきんど会」は昨夏恒例行事の「鉱山祭」に合わせ、史跡を巡るマラソン・ウォーキング大会を初めて開き、機運盛り上げに役買った。同会の中心メンバーの一人で、飲食店を営む岩崎明善さん(49)は「少子高齢化で市街地が寂しくなっている。登録実現で地元の価値を再発見し、子どもたちが誇りに思ってくれたらいい」と願う。佐渡市は、県とともに文化庁へ提出する推薦書原案の作成を進めている。市世界遺産推進課の坂田和三課長(58)は「関係者の期待を裏切らないよう、国から示された課題にしっかりと対応していきたい」と述べた。

「今年こそ」高まる期待 住民

佐渡鉱山の世界遺産登録運動は、古里を思い、誇りを持つ住民らによって、20

年以上にわたり推し進められてきた。長年の悲願達成に向け、島内では期待が高

まっている。登録運動の始まりは1997年ごろ。世界遺産を

まっけてい